

小学校・中学校 特別の教科 道徳

重点1 指導の明確な意図をもつ 目標1 目標2

- 道徳的価値の意義を理解し、指導の意図を明確にするために、ねらいとする道徳的価値（内容項目に含まれるもの）について、学習指導要領に基づき考えている。 (1)道徳的価値の理解
- 児童生徒の実態を把握するために、ねらいとする道徳的価値について、日頃どのような指導を行い、その結果として児童生徒にどのようなよさや課題があるかを明らかにしている。 (2)児童生徒の実態
- 指導の意図を明確にした教材活用、学習展開をするために1及び2をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにしている。 (3)教材の活用

【ポイント】

- ・児童生徒の実態を踏まえて、「どのようなことを考えてほしいのか」、「どのようなことに気付いてほしいのか」指導の意図を明確にして授業を構想しましょう。

※上記の1～3の視点で授業を構想できるシート

島根県教育センター ホームページ



道徳授業づくりシート・リーフレット
(島根県教育センター 企画・研修スタッフ)

重点2 「主体的・対話的で深い学び」を実現する 目標1 目標2 目標4

- 一人一人の児童生徒が自分との関わりで捉えることができる工夫や、多面的・多角的に考えることができる工夫を通して、自己（人間として）の生き方について考えを深められるようにしている。
- 【ポイント】
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICTも効果的に活用しましょう。
(下記「★特別の教科 道徳における ICT 活用」参照)

重点3 「指導と評価の一体化」を実現する 目標1

- 指導において、期待する児童生徒の姿を具体的にイメージし、児童生徒の「学習状況」を把握できるように工夫している。
- 評価において、道徳科の学習の積み重ねによる児童生徒の成長を、学習の過程や成果などの記録、児童生徒自身のエピソードの累積により的確に把握している。
- 発言が多くない児童生徒、考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒等、評価する際の基礎資料がなかなか見いだせない児童生徒についてどのように見取っていくのかを校内で検討している。

【ポイント】

- ・道徳科における評価は、児童生徒の道徳科における学習状況を、個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりで、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか」、「道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているかどうか」の2つの視点で見取り、個人内評価を行いましょう。

★特別の教科 道徳における ICT 活用 目標4

特別の教科 道徳において ICT を活用することによって、次のことが可能になります。

- ・道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深める【主体的な学び】
- ・児童生徒が、異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える【対話的な学び】
- ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を教員が継続的に把握し、指導に活かす【指導と評価の一体化】

【特別の教科 道徳の授業における ICT 活用例】 ※活用の目的は道徳性を養うことであることに留意しましょう。

- 導入の段階 ・児童生徒が道徳的価値についての問題意識をもつことができるように、児童生徒の実態や問題をグラフや画像、映像等で提示する。
- 展開の段階 ・教材を画像や映像等で提示する。
・自分の考えをタブレット上に示し、互いに共有することで他者の考えを知り、多面的・多角的に考えられるようにする。
- 終末の段階 ・自己を見つめるために授業の振り返りなどをタブレット上に示し、授業ごとにその記録を蓄積する。

～上記の重点を意識した授業づくりを支えるために～

- ① 全体計画、全体計画の別業及び年間指導計画を基に PDCA サイクルを意識した授業づくりを行い、道徳教育の要となる道徳科の授業を充実させましょう。その際、教師間で共通理解した、「重点的に指導しようとする内容項目」についての扱いを工夫したり、児童生徒の評価を活用したりして、授業改善を進めましょう。
- ② ①を要として、校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師を中心に、各校の実態に応じて全教育活動を通じて行う道徳教育を推進しましょう。
- ③ 児童生徒が問題意識を高めたり、感動を覚えたりするような教材として「島根県版道徳教育郷土資料『しまねの道徳』」があります。年間指導計画に位置づけ、活用を検討してみましょう。

高等学校 道徳教育

重点1 学校の教育活動全体を通じて人間としての在り方生き方に関する教育を行う 目標1 目標2

- 中学校までの道徳科等を通じて深めた道徳的諸価値についての理解を基にしながら、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、人間としての在り方生き方に関する教育を適切に行っている。
- ホームルーム活動、学校行事などの特別活動や、就業体験活動、ボランティア活動、地域の行事への参加などの体験活動の場を通して、日常生活における道徳的な実践の指導を行っている。
- 学校通信やホームページなどを活用して道徳教育に関する情報を積極的に発信したり、家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との連携を図っている。

【ポイント】

- ・特に、公民科の必修教科目「公共」及び選択科目「倫理」並びに特別活動を、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導場面として重視しながらも、全ての教育活動を通じた道徳教育の充実を図ることを大切にしましょう。

重点2 道徳教育の全体計画を作成し、全教職員が協力して道徳教育を展開する

- 校長の明確な方針のもとに、道徳教育推進教師が中心となって、全教師の協力により作成している。
- 全体計画の作成に当たっては、各学校や生徒の実態に応じて、取扱う内容を重点化して示している。
- 全教職員による一貫性のある道徳教育を推進するために、校内の研修体制を充実させ、全体計画の実施状況を評価し改善している。

【ポイント】

- ・全体計画の作成に当たっては、理念だけに終わることなく、人間としての在り方生き方に関する教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を示すことが必要です。その際、小・中学校の道徳教育との接続を意識しましょう。

小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）

目標3

- ◎道徳的諸価値の理解に基づき、自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成することができる。
- ◎物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としてのよりよい在り方・生き方について自分自身の考えを深めることができる。

研修等について

○小学校道徳教育講座

令和8年11月13日（金）

島根県教育センター

※受講対象者

小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校（小学部）の教員

○県立学校道徳教育研修

令和8年6月24日（水）＜午後＞

※各校からオンラインで参加する。

※受講対象者

高等学校及び特別支援学校（高等部）の「道徳教育推進教師」、「特別活動担当教師」、「公民科目担当教師」のうち、過去3年間で本研修を受講していない者

しまねの教育情報 Web EIOS		文部科学省
小学校 道徳	中学校 道徳	道徳教育アーカイブ
		
小学校道徳のページ	中学校道徳のページ	道徳教育アーカイブ

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-cc.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>

